



メッセージ 国際会長

CICIAMSニュースの前の版以来、
非常に成功した英国会議

SSpeakingアフリカ地域は、
スワジランドカトリック看護師ギルド。会議のテーマは「人類の
慈悲深いケアラーである看護師によるアフリカの保健サービスの
拡大」でした。これは、アフリカにおける看護師の役割を強調し、考
察するために選ばれたテーマでした。

国際教皇庁慈悲年。アフリカの会員だけでなく、他
のCICIAMS地域からの参加者にも有益で、有益で、
喜びに満ちた、心を高揚させる経験となりました。本
号には、プログラムの専門的な内容を示す論文がいく
つか掲載されています。スワジランド・カトリック
看護師ギルドには、このような実りある会議を主催
されたことを心から称賛します。ギルドのメンバー
は、歓迎的で、常に快活で、親切で、プロフェッショ
ナルで、勤勉で、忍耐強く、完璧な
ホストでした。

表現に変化があった

一部のメンバーの任期が満了したため、執
行委員会は解散となり、スワジランドでの
会議に合わせて開催された総会におい
て、後任が総会で選出された。

CICIAMSの活動にとって、新たなアイデア
と専門知識を持つ新たな血の流入は極めて
重要であるため、これまで執行委員会に
所属したことのない方々の参加は特に歓迎いたします。CICIAMS
は、今日の世界においてカトリックの看護師と医療ソーシャルワ
ーカーの声と支援を代弁する役割を果たしており、他の委員会メン
バーと共に、CICIAMSが直面する課題に果敢に取り組んでいま
す。その功績は称賛に値します。

国際的に代表する榮譽に浴しました
第25回世界病者の日におけるCICIAMS
マニフィカトをテーマにした講演会-
昨年2月にルルドで行われた希望の賛歌と

昨年4月、バチカン市国で開催された「人間開発の
促進に関する国際会議ー 福者パウロ六世の回勅『ポ
ピュロルム・プログレッシオ』発布50周年ー」に出席
しました。CICIAMSの選出および指名された代表は、
引き続き国連開発計画 (DPI)においてCICIAMSを
代表し、志を同じくする団体とのネットワークを構
築し、看護および健康全般に関わる重要な事項に
ついて最新情報を発信しています。過去3年間、人口
と開発に関するセッションで彼らが行った口頭発表
をご覧になった方もいらっしゃるでしょう。

CICIAMSウェブサイト。WHOのCICIAMS代表は、ザンビア、ケニ
ア、スワジランドで承認されたプロジェクトを担当する団体と引
き続き連携しています。



カトリック看護師ギルド主催の第20回
CICIAMS世界会議の準備が進行中です。

マレーシア、サラワク州クチン、
2018年9月4日から8日まで。
選ばれたテーマは「持続可能な健康の
ための教育」です。
魅力的な開発、
生命を尊重する。この会議は、ネットワ
ーク構築、情報共有、議論、そして地域間の
関係強化、そしてCICIAMSの国際的な
活動を強化する機会となります。総会と
併せて総会も開催されます。多くの会員
の皆様にお会いできることを楽しみにし

ています。

その間、病人、貧しい人々、社会的に疎外された人々への
奉仕活動と CICIAMS の将来のために、私たちを導いて
くれるようお互いに祈りましょう。

神の祝福。

ジェラルディン・マクスウィーニー
国際会長



ニュース 事務局

CICIAMS事務局よりご挨拶申し上げます。事務局の運営にご尽力いただき、誠にありがとうございます。私は います。今年のCICIAMSニュースは、やむを得ない事情により、これまで配布することができず申し訳ございません。

まず、記事がなかなか掲載されず、さらに元グラフィックデザイナーからの返信もありませんでした。とはいえ、こうして掲載できたことを神に感謝します。今号では、第6回英語圏アフリカ地域会議の活動に焦点を当てます。

この会議は、2016年8月にスワジランドのマンジニで開催されました。会議では、多くの刺激的で教育的な論文が発表され、その一部が CICIAMS ニュースのこの版に掲載されています。

この号では、2017年2月10日から13日までルルドで開催された第25回世界病者の日の活動も特集しています。CICIAMSからは、私たちの親しみやすい国際会長である

ジェラルディン・マクスウィーニーは、現在国際人間開発促進省の管轄下にある教皇庁医療従事者評議会から招聘された。

開発。読み進めると、いくつかのプレゼンテーションと写真が見つかります。

また、当局による修理および改修作業のため、サン カリストの CICIAMS オフィスが一時的に移転していることをお知らせします。

この移転は CICIAMS の事務局業務には影響しません。

来年マレーシアで開催される第20回世界会議の準備として、CICIAMS NEWSでは、活動計画の暫定版も発表しています。日程：2018年9月4日～7日

会場：リバーサイドマジェスティックホテル
マレーシア、サラワク州クチン。

テーマ：持続可能な健康のための教育、開発の促進：

生命を尊重する。

講演者からの確認をお待ちしています。プログラム全文と登録用紙は、準備が整い次第、加盟協会および準会員に配布され、ウェブサイトにも掲載されます。

楽しい読書を！

ドナトウス・アクパン
事務局総長





第25回世界病者の日

CICIAMS国際会長、ジェラルディン

マクスウィーニーは、教皇庁保健医療従事者評議会（現在は解散）の招待を受け、2017年2月10日から13日までルルドで開催された第25回世界病者の日記念コロキウムに出席できたことを光栄に思います。

「マニフィカトー 希望の賛歌」をテーマとしたこの特別な行事は、フランシスコ教皇陛下のご要請によるものです。ルルドがこのイベントの開催地に選ばれたのは、1993年に世界病者の日がルルドで始まったからです。

コロキウムはルルドとタルブの司教ニコラ・ブルエ師によって開会され、参加者を歓迎し、

ルルドの重要性は、聖母マリアが聖ベルナデッタに伝えたメッセージと、キリストが病人や障害者を通して私たちに語りかける聖書の言葉に由来しています。

国務長官ビエトロ・パロリン枢機卿は、教皇からの特別メッセージを読み上げました。その中には、虚弱、依存、身体的・精神的な限界、そして常に他者の助けを必要とする病人たちに向けた特別な言葉が含まれていました。教皇は、人間の尊厳が軽視されてはならないことを強調しました。

医療は妥協の余地はあるものの、常に守り、尊重されなければならない。医療従事者は、あらゆる苦しみを抱えた一人ひとりを温かく迎え入れ、病気が孤立や孤立をもたらす状況とならないように配慮しなければならない、生命の守護者であり奉仕者であると言及された。

人間開発促進省長官のピーター・トルクソン枢機卿は、苦しみは救済への扉のようなものだと言及しました。多くの病人は生きたい、癒されたいと願う一方で、神の愛と聖性のために弟子となる必要性も抱えていると指摘しました。

聖書の中で、イエスが病人一人ひとりと時間を共に過ごしたことが引用されました。イエスは自ら苦しみ、他者の苦しみを引き受け、その死を通して一人ひとりに救いを与えたことが回想されました。イエスは、病者の秘跡は私たちが決して忘れられていないことを示していると強調しました。

ルルド医療観察局長のアレッサンドロ・デ・フランシス博士は、ルルドの聖母に由来する奇跡の起源について説明しました。奇跡は、聖母が9度目の出現で湧き出た井戸で、ある女性が病気の手を洗い、治癒したことに始まります。また、奇跡の判定プロセスの概要を説明し、身体的な治癒ではなく心理的な治癒の難しさについても説明しました。デ・フランシス博士は、巡礼者の多くは中所得層から高所得層であると報告しました。

イタリア司教団のヘルスケア司牧部長であるドン・カルミネ・アリチェ氏は、教会史における慈善活動と、善きサマリア人の「あなたも同じようにしなさい」というメッセージについて言及しました。また、リジューの聖テレーズやアッシジの聖フランチェスコといった慈善活動の聖人たちが、そしてハンセン病患者のケアを専門に設立された聖ラザロ修道会や、ローマに大病院を設立した聖霊修道会といった、より古い修道会についても少し触れました。

病者の聖人として知られる聖人たちには、近代病院の創設者として知られる聖ヨハネ・デ・ゴッド（1495年 - 1550年）、ローマの病院の介護者で院長であり、病人の介護を専門とする自身の名を冠した宗教団体の創設者である聖カミッロ・デ・レリス（1550年 - 1614年）、そして聖ヨハネ・デ・ゴッド（1495年 - 1550年）がいます。

多くの慈善団体にその名が刻まれているヴィンセント・ド・ポール（1581年 - 1660年）世界中で活躍し、貧しい人々を援助するために「愛徳の娘たち」を設立した人々も表彰されました。

イタリア、サン・ジョヴァンニ・ロトンダにあるカーサ・ソリエヴォ・デッラ・ソッフェレンツァ病院の院長、ドメニコ・クルピ氏は、山の頂上に病院を建てたいという聖ピオ神父の願いにこの病院がいかに感銘を受けたかを語りました。クルピ氏は、癒しは愛によって、そして神を人々に導き、公平性、効率性、そして利用という倫理的原則を考慮に入れながら患者をケアすることによって実現されるべきであると主張しました。クルピ氏のプレゼンテーションに添えられた映像には、制服を着た職員が仕事や会議を始める前に祈りを捧げる様子が映し出されています。この病院には聖ピオ神父への深い信仰が確かに感じられます。

フランスの障害者司牧サービス責任者であるクローディ・ブレイエ氏は、すべての人が人生を豊かに生きられるよう、障害者のためのインクルーシブな社会の出現について語った。彼女は教会内で直面するいくつかの困難について語り、例えば、車椅子に座っている人が病院で司牧者になることを許されなかったり、教区司牧評議会のメンバーになりたいが、会合の時間が理学療法セッションと重なるため参加できなかったりしたケースなどを挙げた。ブレイエ氏は、ケアにおけるインクルーシブな司牧アプローチの必要性を訴えた。

「慈悲の母なる教会」は、キエーティ=ヴァスト大司教ブルーノ・フォルテ氏の論文の題名でした。フォルテ氏は、慈悲こそがキリスト教のメッセージの中心であり、イエスの福音の真髄であることを私たちに思い起こさせました。フォルテ氏は、第一次世界大戦と第二次世界大戦の間に聖ファウスティナが受けたメッセージ、そして生ける神を自らの内に映し出す必要性について言及しました。

フォルテ神父は、福音書全体が「帰還」という言葉で表されていると述べました。放蕩息子の例を挙げ、謙遜と本能的な愛について詳しく説明しました。そして、次のように述べて講演を締めくくりました。



教会の中に居続けず、外に目を向けることの重要性を強調します。

レンヌ、ドル、サン＝マロのピエール・ドルネラス大司教の講演は、「病人に告げよ：神の国はあなたたちの中にある（ルカ10:9）」と題されました。彼は、癒しが慈悲の真髄であると述べ、ルルドの聖母出現は19世紀半ばに科学研究と研究成果の発表が進む中で起こったと指摘しました。科学者は一つの答えを提示し、聖母マリアは神の愛に基づく別の答えを提示しました。ドルネラス大司教は聖書からいくつかの引用を引用し、例えば「私は病気で、あなたは私を見舞いに来てくれました」は、信者も非信者も含め、社会のあらゆる人々に向けられたものだと言いました。非信者にとって、自分に何が起こるのか分からず、希望を持っていない時、それは時に困難なことになり得ると、彼は断言しました。大司教は、病人のおかげで私たちは慈悲の心を思い出すのだと述べ、「死者は蘇る」という言葉を引用し、どの町や都市に入っても「神の国は近い」と唱えるように呼びかけました。大司教は、許しは平和と自由をもたらすことを私たちに思い起こさせ、病人が「ありがとう」と言うとき、彼らは神の国に近づいているのだと述べました。

午後には13のワークショップが開催され、最後に各ワークショップから3つのコメントが寄せられました。コメントの一部は以下のとおりです。

従来のモデルにケアの概念モデルを追加すると、健康は向上します。

医学的な説明が見つからない場合、治癒は奇跡となります。奇跡は人々の信仰にかかっています。奇跡は、主が私たちに救う力を持っていることのしるしなのです。

教会の教えを肯定的かつ現実的な言葉で言い換える必要がある。

病気の人は私たちに多くのことを教え、人々と異なる方法で取り組む方法を生み出します。

私たちは愛情あるケアを提供しながら、死に対して前向きになる必要があります。

私たちは悲しみに暮れる人々に寄り添い、一緒に時間を過ごす必要があります。

薬剤師は薬を調剤する以外にも、社会的な役割を担っています。そのための時間が必要です。

私たちは自分の弱点を認める必要があります。

教会と国家の間の調整だけでなく、さまざまな医療サービス間の連携も重要です。

CICIAMS国際会長は短いスピーチを依頼され、CICIAMSについて、1933年にルルドで設立されたこと、その概要、設立以来の看護と医療における変化、そして顕在的および潜在的に存在する倫理的問題について語った。

看護師の仕事が直面する困難、若い看護師を惹きつけることの難しさ、そして看護という職業について少しお話しいただきました。FIAMCとFIPCの国際会長とそれぞれの教会顧問も短いスピーチを行いました。同じ要望です。

2月10日の夜には、トーチ行列と祈りが行われました。2月11日、ルルドの聖母の祝日には、ピオ10世大聖堂で共同ミサが執り行われました。主司式者は国務長官のパロリン枢機卿でした。本当に心が温まるミサでした。その後、洞窟への行列があり、その後、国務長官主催の昼食にご招待いただきました。午後には、ピオ10世大聖堂で病者の塗油式が行われました。

その後、一行は3つの施設を訪問した。

1つ目は巡礼者用の病院でした。2つ目はエアバスの壁面装飾品を製造する工場でした。さらに、調理済みの食事を提供するセクションもあります。これらの施設は家族経営で、約30年の歴史があります。約300人の従業員を雇用しており、全員が薬物依存症から立ち直った人、知的障害者、または身体障害者です。ヘロインを10年間断った従業員も私たちに話を聞いてくれました。3つ目は「ザ・セナクル」と呼ばれる施設で、20人以上の若者が暮らしています。彼らは皆、薬物依存症から立ち直った人たちです。彼らは祈り、歌い、農作業をし、自炊をし、自給自足の生活を送っています。

2月10日、12日、13日も共同ミサが執り行われ、最後のミサは教皇庁保健評議会の最後の議長であったジグムント・ジモフスキ大司教の魂の安息のために捧げられた。

コロキウムは、美しい祈りの雰囲気の中で行われた素晴らしいイベントで、素晴らしい講義や討論を聞くことができただけでなく、他の参加者とのネットワークを築くこともできました。



Catholic Nurses Guild of Swaziland

TELL: +268 25256897
FAX: +268 25056897
EMAIL: sdccatholicnurses@gmail.com



St Theresa's Clinic
P O Box C2559 - HUB
Manzini
Swaziland
Southern Africa

ギフト・トゥ・ホープ・ハウス

昨年8月、アフリカン・コンGRESS主催のゲストがホープ・ハウスで行ったチャリティ・サービスにおいて、寄贈品（経口補水液サシェ）が贈呈されました。来場者はホープ・ハウスの人々の困窮を察し、寄付を寄せてくれました。

エルザ修道女はそれを受け取り、ギルドの優しさと寛大さに感謝しました。



オロス教区の病者の日

(シセルウェニ地区)
2017年12月2日

クライアント



出席

- この日は、300人もの利用者が医療サービスを受けるために来訪し、大変賑わいました。彼らは教区周辺のコミュニティに加え、ンランガノやフラツィからも来ていました。
- 顧客が殺到したため、仕事が忙しく、素晴らしい一日でした。
- さらに驚いたのは、カトリック教徒でない人もいたにもかかわらず、ミサに招かれてもほとんどの客が一歩も動かなかったことだ。



サービスプロバイダー

- カトリック看護師組合のメンバーは、利用者へのサービス提供に全力で取り組みました。グッドシェパード看護学校の学生たちの存在は、この日をさらに華やかにし、

- 手助けをする。
 - 近隣のクリニックやマツサンジェニ保健センターの他の看護師と協力できたことは幸運でした。



提供されるサービス

残念なことに、ムスワティ3世国王陛下が北部のエブレニでブガマ祭に国民を招集したため、血液銀行、乳がん保健、スワジランド糖尿病部門が参加できず、提供されるサービスの範囲が狭まってしまいました。

利用可能なサービスには、治療、HTS/HTC、視力検査、児童福祉、血糖モニタリング、結核スクリーニング、VIACx Ca スクリーニングによる健康促進が含まれます。

保健省パートナー

保健省の両パートナーが南部の保健サービスを支援していることを光栄に思います。MSFとEGFAF/エイズフリー

MSFコミュニティの一員

テストチームが一息つく

ケアポイントからの統計

結核スクリーニング：	すべてのクライアント
HEALTH PRIMOTION 経由 :治療 :視覚的	すべてのクライアント
正確性 :HTS/HTC :	顧客全員 16
バレンタイン月間。	名 男性 女性36人
	43人のクライアント、全員が陰性で、3組のカップルは

尊厳ある牡羊座が認められる

シセルウェニ地区寮母代理、MMMaseko氏 マツサンジェニ地区寮母、N.マンバ 夫人 ギルドの精神的アドバイザー、M.マカマ神父

看護師ギルドの両会長、K.ムテトワ博士とA.ンドロヴカジ氏、南部のSCCW役員、シレレクリニックのバファアリ赤十字の代表